

総合経営学科（令和3年度後期）

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
L212025 経済学 A, D	<p>経済学とは、人々が営んでいる日々の生活、経済活動がどのような仕組みのもとでできているのかを、さまざまな側面から眺めようとする学問です。消費者や企業などの経済主体の経済活動を理解するとともに、市場メカニズムを通して生産や資源配分が、どのようにして行われているのかを明らかにし、よりよい社会をつくり出すには、どうすればよいのかを考察します。経済学に基づく分析手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。</p> <p>現代の社会で用いられている経済学的な分析手法の原理について説明できる。</p> <p>経済学的分析手法を用いて地域社会や自分自身の課題を解決することができる。</p>	<p>受講者が約 200 名。対面授業で行った。アセモグル＝レイブソン＝リスト『入門経済学』（東洋経済新報社、2019）という世界標準的な米国の教科書（翻訳版）を利用した。教科書の問題演習にも一定の時間をあてた。オンラインでの課題提出で出欠を確認せざるを得なかった。コロナに関連する公欠の事例も多数生じた。ミクロ経済学分野に限られたが、造形学部生の専門分野との関連を重視して講義内容を構成した。</p>	<p>授業評価 4.088 (4.2、3.9、4.1、4.1、4.2) 回収率 52.7%</p> <p>経済学は、問題演習が重要である。前年度は、記述式問題中心で授業を進めたが、学生が自分のペースで学習を進めやすくするため、本年度は選択式の問題に重点を置いた。記述式の採点は時間的に困難だが、全体のまとめや感想のレポートを今後は課すことにしたい。</p>
L212026 経済学 B	<p>経済学とは、人々が営んでいる日々の生活、経済活動がどのような仕組みのもとでできているのかを、さまざまな側面から眺めようとする学問です。消費者や企業などの経済主体の経済活動を理解するとともに、市場メカニズムを通して生産や資源配分が、どのようにして行われているのかを明らかにし、よりよい社会をつくり出すには、どうすればよいのかを考察します。経済学に基づく分析手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。</p> <p>現代の社会で用いられている経済学的な分析手法の原理について説明できる。</p> <p>経済学的分析手法を用いて地域社会や自分自身の課題を解決することができる。</p>	<p>受講者が約 150 名。対面授業で行った。アセモグル＝レイブソン＝リスト『入門経済学』（東洋経済新報社、2019）という世界標準的な米国の教科書（翻訳版）を利用した。教科書の問題演習にも一定の時間をあてた。オンラインでの課題提出で出欠を確認せざるを得なかった。コロナに関連する公欠の事例も多数生じた。大部分の学生が、前期の経済学概論で同じ教科書を用いてマクロ経済学を履修しているため、後期のこの科目ではミクロ経済学分野を中心とする講義とした。</p>	<p>授業評価 4.236 (4.4、4.2、4.2、4.2、4.2) 回収率 58.7%</p> <p>経営学部生は、前期の経済学概論を履修済みである場合が多いので、ミクロ経済学だけに内容を絞ることができた。学生が自分のペースで学習を進めやすくするため、選択式の問題の実施にも留意した。アセモグル＝レイブソン＝リスト『入門経済学』（東洋経済新報社、2019）という世界標準的な米国の教科書（翻訳版）を利用し、前期の経済学概論でマクロ経済学、後期の経済学でミクロ経済学を講義し、付録の問題演習も含め、1冊の教科書を1年間で徹底的に利用した。経済学概論が専門科目、経済学が教養科目という変則的な構成を、次期カリキュラム改定で是正したい。</p>
212058 専門ゼミナールⅣ(新カリ)	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントでき、ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを目標とする。</p>	<p>就職活動が近づく時期でもあり、受講生が企業で働くことの意味についての理解を深めるよう指導した。しかし、公欠を選択する学生もおり、進捗調整が困難であった。プレゼンテーションの機会も少なかった。基礎的な文章作成能力はあっても、学術的な論説文の執筆経験が乏しい学生が多く、文章指導に時間がかかった</p>	<p>授業評価 5.000 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 53.8%</p> <p>授業時間が短いため、より効率的な授業時間の配分が必要とされ工夫が必要であった。90分授業に戻れば、余裕のある内容に戻すことができると思う。発表のローテーションを事前に十分調整し、無駄な時間が生じないようにし、ディスカッションの時間を確保する必要があると思う。</p>
S212090 卒業研究	<p>企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>10名を指導したが、4年次からの転入者の卒論指導、履修指導に一工夫が必要であったが、結果的には、無事卒業、就職することができたことは幸いであった。コロナ禍ということで、前期公欠者が数人いた。公欠せず、年間を通し対面で出席した学生たちは、卒論の密度が高く、完成も早かった。</p>	<p>授業評価 4.84(5.0、4.8、4.6、5.0、4.8) 回収率 50.0%</p> <p>多人数のため、テーマ別にグループで研究指導を進める方式は維持するが、ゼミ全体でのグループ間の意見交換、相互評価も重要であり、そうした発表の回を設けたい</p>

S212021 経営戦略論（火2）	経営戦略に関する基礎的な知識を習得し、優れた戦略とそうでない戦略の違いを見分ける「戦略審美眼」を身に付ける。	経営戦略論は、2年後期の必修科目であり、経営学を学ぶうえで、中核に位置づけられる。これまで学生が学んできたマネジメントに関する知識を体系化して理解させることができたと考えている。対面授業においても、コロナ回避を目的としてオンライン授業を選択した者も概ね予定通りの教育効果が得られたと考える。	授業評価 4.60(4.7、4.5、4.5、4.7、4.6) 回収率 48.9% 今後もより学生が経営戦略を身近な問題として感じられるよう、最新の事例を取り入れて紹介していきたい。
S212022 経営戦略論（水2）	経営戦略に関する基礎的な知識を習得し、優れた戦略とそうでない戦略の違いを見分ける「戦略審美眼」を身に付ける。	経営戦略論は、2年後期の必修科目であり、経営学を学ぶうえで、中核に位置づけられる。これまで学生が学んできたマネジメントに関する知識を体系化して理解させることができたと考えている。対面授業においても、コロナ回避を目的としてオンライン授業を選択した者も概ね予定通りの教育効果が得られたと考える。	授業評価 4.41(4.6、4.3、4.4、4.5、4.4) 回収率 50.7% 今後もより学生が経営戦略を身近な問題として感じられるよう、最新の事例を取り入れて紹介していきたい。
S212030 専門ゼミナールⅡ（新カリ）	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようにする。	金融経済の基礎知識について、文献を読んで、各担当ごとに発表し、討論を行った。このことにより、問題理解と解決提案をプレゼンテーションする能力と、意見や批判を受け止め、考える能力がある程度養われたと考える。	授業評価 4.24(4.4、4.2、4.2、4.2、4.2) 回収率 35.7% 学生がより主体的にリサーチ、プレゼンできるよう指導していきたい。
S212051 専門ゼミナールⅣ（新カリ）	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業で実際にマネジメントできる。	ICTの進展に伴う最新の金融ビジネスに関する文献を担当別にプレゼンするかたちで演習を行った。金融に関心を持つ学生が多く、やや難解な内容であったにもかかわらず、事前にリサーチして、意欲的な報告と討論が行われた。演習を通じて、経営的な思考能力と判断能力が養われたと考える。	授業評価 4.90(5.0、4.8、4.8、4.8、5.0) 回収率 60.0% 今後は、学生が興味を持つテーマを自ら設定して、報告できるように指導していきたい。
S212071 卒業研究	学習から得られた問題意識に基づいて、その内容を卒業論文にまとめる。グラフ、図、フローチャートを用いて、自分の主張をより効果的に示すことができる。	これまでの学習の集大成として、各学生が興味をもつテーマを設定し、適切な参考文献による先行研究のリサーチと、リサーチクエスチョンに対する時分なりのアプローチの結果を卒業論文にまとめる指導を行った。卒業論文の出来栄には、ややばらつきがあるものの、いずれも合格点には到達することができた。	授業評価 4.80(5.0、5.0、4.7、4.7、4.7) 回収率 30.0% 締め切り間際に、切迫した状況で卒業論文を仕上げる学生が散見されたため、今後は全員が計画的に進められるよう、スケジュール管理を厳格化していきたい。

<p>Q212002 教職論 (教育課程の意義及び編成の方法を含む)</p>	<p>教職について関心を持ち、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容・研修等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。現在の学校現場が抱える多様な問題の状況を把握すると同時に学校の教職員構造の転換（チーム学校の実現）の方策についても理解する。教育課程の意義、教育課程の歴史的変遷、果たす役割をとらえ、学校における教育課程の編成の重要性をとらえるとともに、新しい学力観に基づいた教育課程の方向に関心を持って対応できる能力の育成を図る。</p>	<p>教職の意義や教員の役割について概説し、教職への意欲や適性等について多角的に考察する機会を設けたが、グループワークや発表の時間を十分にとることができず、自ら教員として、当事者として実践的な教育上の課題について取り組む姿勢や態度を育成できなかったことが課題である。</p>	<p>授業評価 4.3 (4.6、3.9、4.0、4.4、4.5) 回収率 57.1% 科目 GPA2.21</p> <p>教員の職務内容や教育上の課題等について、具体的実践的に理解できるように演習やグループ討議などを行い、当事者としての意識を持てるように授業計画を工夫する。</p>
<p>Q212003 教育方法論 (総合的な学習の時間の指導法を含む)</p>	<p>教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。) では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」とされていた総合的な学習は「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」とより明確化された。この授業では総合的な学習の時間の目標、評価について意義、計画、指導、評価に関する基本を身につけることを目標とする。</p>	<p>授業計画で、前半は講義形式で、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、後半は演習形式で学習指導案の作成、ミニ模擬授業の実施で学生は主体的に学習を進めることができた。時間不足もあり、総合的な学習の時間の学習指導案の作成などについては不十分であった。</p>	<p>授業評価 4.2 (4.4、3.8、4.1、4.2、4.4) 回収率 73.3% 科目 GPA2.73</p> <p>今後、現場で必要が高まる ICT 機器を実際の授業にどのように取り入れていくか、学習計画での導入のプラン、実際の模擬授業での使用法などを身に付ける場面を多く取り入れていきたい。総合的な学習については、なかなか学習の場を学生には想起できないので、学校現場の授業記録動画などを視聴させることによってイメージさせたい。</p>
<p>Q212005 公民科教育法 I</p>	<p>公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法 (学習指導案の作成) を身に付け、それをもとに実際の授業ができる能力を身に付ける。</p>	<p>公民科の授業をする上で、本学の学生が不足している教科の知識を補うことができず、指導案の作成及び模擬授業では授業の構造化がうまくできずメリハリのない授業が多いのが反省点である。授業方法では ICT 機器を効果的に使用したり、発問ができた点は評価できる。</p>	<p>授業評価 4.8 (4.8、4.8、4.8、4.8、4.8) 回収率 100% 科目 GPA3.50</p> <p>公民科の基礎的な知識を確認する課題を与えて教科に関する知識を補うことなどを考えていきたい。学生が行う授業で学習目標を明確にするために、その授業に対応する評価問題の作成を通じて明確にしていきたい。</p>
<p>Q212009 教職実践演習 (中・高)</p>	<p>教職課程の他の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認することを目的とする。</p>	<p>教育実習を全員が無事終了し、教師としての自信と自覚が多く多くの学生が持つことができ、授業における様々な事例研究の議論や発表において教師としての見方、考え方で進めることができるようになった、しかも内容は実践的で自身の濃いものであった。</p>	<p>授業評価 5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 50.0% 科目 GPA4.0</p> <p>大学の校内の授業では、この科目の意図である現場ですぐに活動できるスキル・知識を育成することに限界もあり、今後は校外の授業の研究発表会への参加や高等学校訪問など機会を現状より多く設定したい。</p>

<p>Q213003 事前・事後指導</p>	<p>実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にします。外部の学校での実習に臨むために、本校の学生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことを含めて行います。教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。教育実習をスムーズにできるようにすること。</p>	<p>少人数で教育実習を直前に控え、学生も欠席もなく前向きに取り組み、学習指導案の作成、模擬授業なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組むことができた。また、実習中の流れと心得を実務、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材の配信は学生に好評であった。</p>	<p>授業評価 4.6(4.5、4.5、4.5、4.5、5.0) 回収率 50.0% 科目 GPA4.0</p> <p>最近の学校現場を踏まえた授業形態、特にICT機器(実物投影機、タブレット、パワーポイントなど)の効果的な利用法を、講義だけでなく実際に使用させる授業も取り入れていく。</p>
<p>Q213001 教育実習 I</p>	<p>授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。</p>	<p>この科目は全て教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。</p>	<p>授業評価 4.9(4.5、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 50.0% 科目 GPA は授業科目でないため記載せず。</p> <p>教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。</p>
<p>Q213002 教育実習 II</p>	<p>授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。</p>	<p>この科目は全て教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。</p>	<p>授業評価 5.0(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 100% 科目 GPA は授業科目でないため記載せず。</p> <p>教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。</p>
<p>S212063 専門ゼミナールⅣ(新カリ)</p>	<p>授業の目標は、経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできるようにすることを目指します。教育効果としては、ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できることを期待します。</p>	<p>履修者 4名の小人数の授業で、学生は教職を目指す学生がほとんどで、教育をめぐる諸課題、学校経営の在り方などのテーマを中心に情報を収集し、発表を通じて学生が主体的に課題に取り組んだが、表面的な理解に終わり、多面的・多角的に思考、表現する点に欠ける点があり、後期には多くの文献に当たらせ、個別にアドバイスを、支援をする場面を多く設定していくつもりである。</p>	<p>授業評価 5.0(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 75% 科目 GPA3.3</p> <p>授業評価の低かった学生の達成目標の到達を実現できる手立てとして、授業課題、授業外課題を工夫して、受講生徒が主体的に学習する方策を今後考えていきたい。</p>
<p>L212004 プレゼンテーションツール A1</p>	<p>①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。</p>	<p>授業方法としては、対面は教科書に沿っての例題の解説。オンラインはそのビデオ閲覧となった。課題は、教科書の例題および演習問題であり通常の授業と変わりなかった。通学の学生も課題作成のため、自分のPCがない場合大学でPCの貸し出しを利用して、真面目に課題等をやった学生は目標が達成できたと思う。</p>	<p>授業評価 4.3(4.4、4.1、4.2、4.3、4.3) 回収率 81.6% 科目 GPA2.18</p> <p>アンケートからは、学生に満足されている。発表の機会が与えられクラスの仲間の状況がわかり楽しそうであった。</p>
<p>L212005 プレゼンテーションツール D1</p>	<p>①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。</p>	<p>授業方法としては、対面は教科書に沿っての例題の解説。オンラインはそのビデオ閲覧となった。課題は、教科書の例題および演習問題であり通常の授業と変わりなかった。通学の学生も課題作成のため、自分のPCがない場合大学でPCの貸し出しを利用して、真面目に課題等をやった学生は目標が達成できたと思う。</p>	<p>授業評価 4.3(4.4、4.2、4.4、4.4、4.3) 回収率 62.3% 科目 GPA2.31</p> <p>アンケートからは、学生に満足されている。発表の機会が与えられクラスの仲間の状況がわかり楽しそうであった。</p>

L212006 プレゼンテーションツ ール B1	①ICT の光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決に ICT を活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	授業方法としては、対面は教科書に沿っての例題の解説。オンラインはそのビデオ閲覧となった。課題は、教科書の例題および演習問題であり通常の授業と変わりなかった。通学の学生も課題作成のため、自分の PC がない場合大学で PC の貸し出しを利用している学生も多くいた。真面目に課題等をやった学生は目標が達成できたと思う。	授業評価 4.4 (4.6、4.3、4.4、4.4、4.4) 回収率 31.1% 科目 GPA1.64 アンケートからは、学生に満足されている。発表の機会が与えられクラスの仲間の状況がわかり楽しそうであった。
S212028 専門ゼミナールⅡ (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	IT パスポート試験の学習を行い、それぞれの単元を反転授業として行った。発表が嫌で嫌で発表しなかった学生もいたが、大学生としては与えられた単元は発表しなければならず減点の対象となった。その分限定され単位が与えられなかった学生もいた。学生にとってはコロナ禍と相重なりつまらないゼミナールになったと思う。	授業評価 4.4 (4.6、4.3、4.3、4.5、4.4) 回収率 47.18% 科目 GPA2.18 IT パスポート合格者は 0 名にだけとなり、あまり成果は出せていなかった。自宅学習させる方法が見つからない。
S212050 専門ゼミナールⅣ (新カリ)	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的にかつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	IT パスポート試験の学習を行い、それぞれの単元を反転授業として行った。2 年制まではコンピュータの学習をしてこなかったため、このクラスからは合格者が出なかった。また、学生にとってはコロナ禍と相重なり発表だけのつまらないゼミナールになったと思う。	授業評価 5.0 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 100% 科目 GPA3.67 IT パスポート合格者は 0 名にだけとなり、あまり成果は出せていなかった。自宅学習させる方法が見つからない。
S212083 卒業研究	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的にかつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	コロナ禍でオンラインが多かったがそれなりにできたと思う。文献の検索は自宅でもできるがプログラム作成となると自分一人では難しかったのではないかと思う。いわれたことを一人自宅でする学生に育ってほしかった。	授業評価 4.9 (5.0、4.5、5.0、5.0、5.0) 回収率 40% 科目 GPA2.40 就職活動や企業の呼びだし・宿題当で肝心の研究が深く出来なかった。毎年就職優先となり改善方法がない。
S212088 戦略思考Ⅱ	達成目標 与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	レポートが Web 提出だったが、全体的には問題なかったものの、授業には出席しているがほとんど提出できなかった学生が 2 名おり、結果、不合格となった。授業に関しては、将来スポーツ指導者を目指している学生もいたが、前期と比べ、目標をもって取り組む状況でない者も多く、なかなか集中できず、動機づけに苦労した。	授業評価 4.814 (4.8、4.8、4.8、4.8、4.9) 回収率 70.0% 科目 GPA1.95 選抜人数が少なかった前期に比べ人数が増え、その分集中力が散漫な学生が増えた感がある。授業内容に関しては、かみ砕いた内容で説明したが、ある程度理解は進んだのではないかとみている。また、回収率に関しても 70.0%と、前期に比べれば注意を促した分、回収できたと考えられる。2022 年度の戦略思考Ⅰでは引き続き、理解度が高まる授業を展開していきたい。

L212022 スポーツB アーチェリー 一集中	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。	アーチェリーの知識をレポート作成をすることで明らかにし、実技を通して射法、ルール、安全対策を身に着けることができた。レポート作成と実射時間の比率を、実射に重きを置いたところ、全員が、最終的に10mの距離からの的を狙って矢を放ち、得点帯の中に入れることができた。集中授業ということで、体力がない学生は苦しい状況になるが、時間的な間隔を取り、解説しながら進めたことは効果が上がった。	授業評価 4.50(4.5、4.5、4.5、4.5、4.5) 回収率 66.7% 科目 GPA1.58 今年度は「F」の学生比率が少なかったが、レポートの提出が芳しくなく、全体の科目GPAも低なった来年度は、実技に重きを置いた評価に変更するとともに、レポートを期限内にしっかり提出させる工夫と体制をとっていきたい。
S212029 専門ゼミナールⅡ(新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	現実の企業活用に対し関心を持つような意識づけを心掛けた。ケース分析の結果を、相互に意見交換をしながらプレゼンテーションすることで、プレゼン能力並びに意見や批判を受け止め、考え続けていく探求力を身につけることができたと考える。	授業評価 4.8(4.9、4.6、4.8、4.8、4.7) 回収率 68.8% ケーススタディの鮮度を意識し、身近な事例からマーケティング、さらに経営学に対する知識と関心が持てるように工夫していきたい。
S212059 専門ゼミナールⅣ(新カリ)	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	専門ゼミナールⅢで取り組んだ内容を土台としてロジカルな考察力の強化を図った。そのために各自で関心のあるテーマを選択の上、調査や分析を行った。その成果をパワーポイントで発表することでプレゼン能力が向上し、さらに他者の意見や助言を基にステップアップすることができたと考える。	授業評価 4.8(4.8、4.8、4.9、4.8、4.8) 回収率 75.0% 事例研究(ケーススタディ)と理論を紐づけし、興味のある研究テーマを段階的に絞っていきけるようにしたい。最新の事象や変化をトピックスとして紹介し、研究テーマの検討にあたっての情報を質量ともに充実したい。
S212080 卒業研究	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。	卒業論文の作成を個別指導し、文献調査やインタビュー調査の手法の基本を指導した。その結果、個人差はあるものの課題発見力や論理的思考力が身についた。また論文執筆や報告会でのプレゼンテーションを通じ、文章表現力や口頭表現力を養うように心掛けた。ゼミ生全員が一定レベルの卒論を完成することができたと考える。	授業評価 4.8(5.0、4.7、4.6、4.9、4.9) 回収率 90.0% 卒業論文執筆の指導において、個別に参考文献の紹介を積極的に行いたい。また各人の能力に応じ、よりきめ細かな個別対応を図りたい。
S212004 経営と流行	過去から今日に至るまでの経営手法を理解することができる。 時代に適応したビジネスモデルを理解することができる。	明治時代から今日に至るまでの企業経営において、各時代における中心的な経済・産業政策や事業運営の手法を解説することができた。 ワークライフバランスやICT、企業と社会の共通価値創造など、現在の経営課題も織り込むことで、将来を考え、未来へとつながる経営の視点を持つことができたと考える。	授業評価 4.4(4.6、4.3、4.3、4.4、4.4) 回収率 37.5% キーワードの理解が促進できるように配布資料を工夫したい。また経営に対する影響力や価値が可視化できるように事例の充実を図る。
S212019 ショップ経営論	商店の設立や運営に関する知識を理解することができる。 商店の多様な形態を理解することができる。 簡単なモデルの商店の設立や運営をすることができる。	前年度と比較して事例紹介を充実させた。開店準備や集客方法、雇用、経理など、実際に店舗を開店、運営する上での知識を学ぶことで、店舗経営に関する課題発見力や実践的な力を身につけることができたと考える。	授業評価 4.5(4.6、4.5、4.3、4.5、4.4) 回収率 62.9% 学生が関心を持てるように、事例を新しく更新しながら授業の素材を工夫したい。

S212042 ヒット商品企画論	世の中のヒット商品を基に、その成功要因を論理的に理解できる。 商品が生み出されるプロセスを理解することを通じて、企業で実際に商品企画やその過程のマネジメントを行うことができる。 現代企業のビジネスモデルについて、その全体像を把握することができる。	新カリキュラム科目の初年度ということで、授業内容に関する課題を毎回提出してもらい、理解度の確認を行った。商品やサービスが消費者に受け入れられ、ヒットする要因をマーケティングの観点から学ぶことを通し、商品企画や顧客満足に関する課題発見力や実践的な力が身につくように心掛けた。	授業評価 4.6 (4.7、4.6、4.6、4.7、4.6) 回収率 57.4% ヒット商品が生み出されるプロセスの事例を適宜あげながら授業を進めたが、さらに事例を充実し、理論面での理解が促進されるように工夫したい。
U212005 マーケティングと広告	①マーケティングと広告の関係を理解することができる。 ②広告の媒体と表現について、現在の動向を理解することができる。 ③商品やサービス、企業を想定して、広告制作のプランニングをすることができる。	事例と理論を組み合わせ、マーケティングと広告が日常生活に身近な学問であることをわかりやすく説明するように心掛けた。 評価の高いCMを事例としてとりあげ、関心を高めると同時に理解を促す工夫をした。	授業評価 4.4 (4.6、4.4、4.4、4.4、4.4) 回収率 54.0% 現在の潮流を説明し、かつ学生が関心を持てるように事例を新しいものに更新する。事例と理論をセットで解説し、理論を実践活動に紐づけできるように工夫したい。
L212021 スポーツ B A、D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	履修者 14名で、S3名、A4名、B4名、C3名であった。 Cとなったのは、欠席4回、5回の学生と、特別配慮で、途中から出席しなかった学生のみ。 全体的に取り組みもよく、スムーズに授業が行われた。	14名履修9名回答 回答率 64.3% 平均 4.58 (4.7、4.4、4.4、4.7、4.7) 15週目の出席が6名だったのに関わらず、9名が回答し、達成目標達成度に準拠した授業評価となった。 学生の取り組みの良さが反映された結果となった。 学生の取り組みに応じられるよう、今後も取り組んでいく。
S212010 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	履修者 18名で、A4名、B4名、C1名、D6名、E1名、F1名。 再試験 C1名、D5名であった。 本試験 Dとなった学生のうち、未提出2名、試験レポート6割未満4名。再試験未提出4名であった。 最終的に、18名中、8名が不合格と、想定外の状況となった。過程評価課題をそれなりに記述して提出していれば、A評価となるよう配慮したが、過程評価の取り組みが悪く、過程評価で6割あった学生が6名しかいなかった。	18名中1名回答 回答率 5.6% 平均 5 (5、5、5、5、5) 15週目振り返りで、授業評価を回答させたが、出席者12名で1名しか回答しなかったというのが、取り組みのレベルを表していると推測する。 学生にとっては、位置づけがわかりにくい授業ではあるが、ていねいに取り組めるよう、心がけていく。
212012 体力とトレーニング 【開放】	体力の概念・測定方法・評価方法を習得できる。 健康と体力の関係について理解できる。 ライフステージに応じた健康問題と運動の視点についての知識を習得できる。	履修者 37名で、(S4名、A2名、B5名、C8名、D7名(再試験C2名)、E11名)であった。 再試験でDとなった5名のうち、3名は未提出、2名は過程評価を補えなかった学生である。ていねいに組み組めば、ほとんどの学生は、再試験までには合格できたと考える。 達成目標にあるように、内容が多岐にわたっており、履修者が講義内容の幅を十分に理解できていないのが、途中での脱落の要因であると考えられる。	37名中14名回答 回答率 37.8% 平均 4.27 (4.2、4.3、4.4、4.2、4.3) 回収率が低いいため、達成目標への達成度との関連は不明である。 履修者には、授業内容を十分に理解してもらい、各授業内容の理解につなげていきたい。

<p>S212020 球技スポーツ演習【開放】</p>	<p>球技スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 球技スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 球技スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、試合のレベル向上のための方法を考えることができる。</p>	<p>15名の履修者で、S3名、A3名、B2名、C3名、欠席過多1名、評価不能3名であった。欠席過多は全欠席、評価不能3名のうち、1名は試験レポート未提出、2名は過程評価でも6割に達せず、試験レポートを十分に記述できなかった。通常考えれば、全欠席の学生以外は、全員合格できたと考える。 達成目標は、教養科目のスポーツと大差がないものであったが、専門科目であり、技術論、戦術論をていねいに指導した。</p>	<p>15名中8名回答 回答率53.3% 平均4.6(4.8、4.5、4.6、4.6、4.6)</p> <p>回答率が予想より低いが、達成目標に対する達成度を考えれば、妥当な評価であったと考える。 専門科目のスポーツ演習であることを、十分に理解してもらい、取り組めるよう、配慮していく。</p>
<p>S212040 スポーツチーム経営論【開放】</p>	<p>スポーツチーム経営の基礎理論を身につけることができる。 領域に応じたスポーツチーム経営の実践スキルを身につけることができる。</p>	<p>S3名、A1名、B5名、C10名、D15名(再試験C8名、D7名)、超欠2名であった。 新カリ3年時、初めての授業で、手探りの部分もあったが、授業構成自体は、それなりにまとまっていたと考える。 過程評価で、6割に達していない学生が14名存在し、最終的な成績もそれに準じたものとなった。3年生後期であり、過程評価を見る限り、試験レポートで、もう少し挽回できると考えていたが、残念な結果となった。 スポーツチーム経営論という授業で、達成目標からは、チーム(メンバー)のマネジメントなのか、アマチュアチームのチーム経営なのか、プロチームの収支まで含めたチームマネジメントなのか、明確でない授業であり、授業内容の構成に苦労した。</p>	<p>36名中17名回答 回答率47.2% 平均4.2(4.3、4.2、4.2、4.1、4.2)</p> <p>達成目標と、成績を鑑みれば、妥当な結果であったと考える。内容に関しては、様々なスポーツチーム経営についての講義で、学生からしてみれば、焦点が絞りにくいタイプの講義であったと考える(参考になる書籍を検索してもらえば、いかに多岐にわたる分野か推測できる)。 今後、さらに研鑽を積み、様々なスポーツチーム経営を、よりわかりやすく講義するよう心がけていきたい。</p>
<p>S212061 専門ゼミナールⅣ(新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。</p>	<p>過年度の再履修3名、通常履修5名、再履修者B1名、D2名(再試験C1名、D1名)、通常履修S1名、A1名、D1名(再試験未提出D)、F2名であった。 過年度生のDの学生は、卒業研究同様、最後は、放棄してしまった学生であった。通常学生Dの学生は、再試験の提出期限を守ることが出来ずDとなった。F2名は、当初から放棄してしまった学生で授業課題自体をほとんど提出していない。 過年度生Dとなった学生にはていねいに指導してきたが、放棄してしまい、合格とすることが出来なかった。通常学生Dとなった学生は、単なる提出ミスであり、残念である。F2名は、いろいろとアドバイスはしたが、課題を過去たちにすることが出来なくて、最後まで迷路を抜け出せなかった。</p>	<p>8名中6名回答 回答率75.0% 平均4.80(5.0、4.8、4.7、4.8、4.7)</p> <p>授業評価を達成目標に対する達成度で考えれば、上位2名については妥当であるが、他の4名は高すぎる。授業内容で評価されたのだと考えるが、実情が反映されていない。 今年度の学生は、昨年不可となった3名と、今年度のゼミ生6名であったが、7割は、レポートが書けないレベルの学生で、相当の指導を必要であるし、それでも、不可、評価不能の学生が存在する。今後もこのような学生に対し、ていねいな指導を心がけていきたい。</p>

<p>S212093 卒業研究</p>	<p>体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。</p>	<p>本試験の段階で、B1名(欠席4回)、C1名、D3名(再試験でC2名、D1名) 昨年度の専門ゼミナールから指導しているが、レポート自体を理解できない、記述できない学生がほとんどで、指導には苦勞した。 授業での指導だけでは、合格レベルに達しない中、Teamsを利用して、細かくていねいに指導し、4名を合格させることが出来た。最終的にDとなった1名は、再試験提出を放棄した学生のみであった。</p>	<p>5名中3名回答 回答率60% 授業評価平均4.67(4.7、4.7、4.7、4.7、4.7)</p> <p>授業評価は低くはないが、達成目標には到達できておらず、状態が反映されていないように感じる。 なんとか合格に達したということで、それなりの評価となったと推測する。 本ゼミを希望する学生は、他のゼミで弾かれた学生、自らゼミを選択できなかった学生がほとんどであることを考えれば、十分な成果であったと考える。 今後も、そのような学生には、Teamsを利用した細やかな指導でないと、合格ラインまでもってくることは難しいことが予測される。</p>
<p>L212007 プレゼンテーションツール A2, D2, B2</p>	<p>①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。</p>	<p>授業内容は加藤先生の指示の元行ったが、一年前期必修の「情報リテラシー」の復習のような内容で、教科書も同じような内容で、教科書も同じであったところをさらになぞって身に付けさせるような内容だった。Word、Excel、PowerPointは社会人になってからも必要であるし、これぐらい時間をかけて教える事が、特に偏差値のあまり高くない大学では必要と思う(上位校ならば、Excelの使い方くらいネットで調べてね、で済むが)。毎回、UNIPAで或る条件を満たすファイルを提出させる事を繰り返したが、多くの学生があまり苦勞せずにやっていたと思う(課題を軽くしたので)。</p>	<p>授業評価4.19(4.2、4.1、4.1、4.1、4.4) 回収率37.5% 科目 GPA1.98</p> <p>「授業内容・課題は、達成目標に即したものでしたか」の設問5は、比較的点数が高かった。本学の学生レベルに合わせて、過剰な課題を出さないように留意した事を反映しているものと思われる。</p>
<p>S212008 経営の基礎Ⅱ</p>	<p>他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 高校生から(本学)経営学部学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、経営学部学生としてのチューデント・スキルを身につけます。</p>	<p>他の先生方とのオムニバスで、他の先生方の真似をしながら、無難に遂行する事が出来たと思う。しかし、一年生も後期に入ると、だんだん大学に慣れて来たのか、適当にさぼる事を覚えても来たようで、欠席が目立ったのは残念だった。自分の指導不足も反省している。</p>	<p>授業評価4.53(4.3、4.5、4.8、4.5、4.5) 回収率30.0% 科目 GPA2.35</p> <p>アンケート回収率は低かったが、授業評価は軒並み高得点だった。アンケートをしっかりと提出するような学生は、授業に対しても肯定的な考えを有しているのかもしれない。</p>

<p>S212026 国際社会論</p>	<p>国際ビジネスに必要な知識として、国際社会の姿を理解することができる。 国際社会において、ビジネスに求められる手法を理解することができる。 日本国内・海外において企業をめぐる様々出来事を通して、課題発見力を身に付け、課題解決に向けて周囲とコミュニケーションを図り実行できるようになる。</p>	<p>国際社会については、私は実務経験も専門に研究した事もなく、担当者となってかなり困惑したが、最近の世界各国の様々な問題を取り上げ、時事問題の解説をするような授業とした。幸い、SDGsとか、グローバル企業の動向とか、経営に係るトピックも多く、毎週、私自身がまず勉強してから教えるような形となった。しかも、受講生は留学生限定である。そこで、日本語テキストは少なくし、各回スライドの重要点を答えさせるような小レポートを課した。留学生たちは日本語は不得意だが、地頭の良さが感じられ、受講態度も良く、欠席も少なく、他の科目に比べて断然、気持ち良く授業が出来た。今年度は、出身国別にグループを作り、もう少しディスカッションを取り入れる事が出来ればと考えている。</p>	<p>授業評価 4.65(4.8、4.7、4.3、4.7、4.8) 回収率 70.6% 科目 GPA3.32</p> <p>上記のような学生達のレベルの高さを反映してか、アンケート回収率も高く、またそのような学生達から高得点を頂けた事は有難かった。しかし、設問3「授業評価(過程・成果)は、自分の達成度に合っていましたか」がやや低かったので、今後の課題としたい。</p>
<p>S212089 戦略思考Ⅱ</p>	<p>与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。 担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>新担当で、授業構成に苦勞したが、自分が発想支援システムの研究をしてきた事もあり、創造技法(発想法)を紙の上で展開する事を中心とした。また、最後は紙や文房具を用いる貿易シミュレーションゲームを行った。このゲームは企業の研修などでもよく使われるが、本学で実施した場合、紙を何枚も重ねて一気に切ってしまうなど、貿易とはほど遠い結果となり、私の指導力不足を感じた。この部分は、今度は大幅に変えなければならないと思う。ゲーム的な内容が多かったので、学生達は比較的楽しそうにやってくれていた。</p>	<p>授業評価 4.66(4.6、4.6、4.7、4.8、4.6) 回収率 59.1% 科目 GPA2.73</p> <p>試行錯誤の授業展開だったに関わらず、意外と高得点を付けて貰えた。アンケート回収率も比較的高い。その割に科目 GPA が伸びなかったのは、欠席がちな学生が多かったためと思われる。</p>
<p>L212033 キャリアデザインⅡB</p>	<p>自己の将来についてのビジョンが描けるようになる。 自分軸に基づくキャリアプランニングができる。 就職活動に必要な能力や技術を身につけることができる。</p>	<p>伊藤万知子先生と二人で担当。毎回の課題レポートの採点は隔週で入れ替わりに行っていたが、必修で百人以上居るので、最も時間を割く科目となった。三学科共通の外部講師の回が多く、その解決策として当初は ZOOM を用いていたが、本学のネットワーク環境が悪くトラブル続出、多くの学生達から答案にクレームが追加される事態となった。途中から ZOOM を取消し、外部講師に時間を分割して三教室回って頂く形になった。今年度はこの対応が最大の課題となると思う。三年生にとって、就職は重大な問題なので、学生達からは真剣みも感ぜられ、受講態度は比較的良かったと思う。新担当の新海先生とよく相談し、進めていきたい。</p>	<p>授業評価 4.24(4.3、4.2、4.3、4.2、4.3) 回収率 56.2% 科目 GPA2.1</p> <p>授業評価は概ね良い点数だった。やはり、就職支援という事で、自分達に役立つ内容であることを感じてくれた結果ではないかと思う。</p>

<p>S212068 比較思想論</p>	<p>古代・中世・近代の主な思想家の考え方を知る。 様々な経営思想の違いを知る。 人工知能に対する様々な考え方の違いを知る。</p>	<p>初めての科目であり、また私自身、思想学にはあまり詳しくないので、授業内容を考えるのに苦労した。オーソドックスに古代から近代までの有名な哲学者や思想家の考え方を纏めたが、なんとなく高校の倫理・社会のような内容になってしまったと思う。これだけでも14回は厳しく、前任者がやられていたような経営思想の比較、私の分野である人工知能に対する考え方の比較なども取り入れて頂いた。講義形態も座学で私が説明したあと、要点を時々纏めさせる方法を取ったが、今年はまだ少し資料に基づいて学生に考えさせる時間を作りたいと思う。</p>	<p>授業評価 4.31(4.3,4.1,4.4,4.5,4.4) 回収率 40.7% 科目 GPA2.44</p> <p>設問2「シラバスに示されている達成目標をどの程度達成出来たか」がやや低かったため、今後の課題としたい。他の項目は意外と高得点を頂けた。</p>
<p>L212011 統計学 A</p>	<p>①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。</p>	<p>対面 60分・オンデマンド 30分の授業を実施した。学習過程評価は3回の宿題(満点の合計が50点)、学習成果評価は50点満点のレポート試験である。2021年度は、有効数字の取り扱い方法について、繰り返し説明を行った。このため、すべての受講者が正しく有効数字を扱えるようになったとまでは言えないが、多くの受講生が有効数字を意識できるようになった。履修登録した83名中、19名が不合格(D,E,F評価)であった。</p>	<p>授業評価 4.26(4.4,4.1,4.1,4.3,4.3) 回収率 63.9% 科目 GPA2.29</p> <p>統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3クラスを開講している。今年度は、スマートデザインクラスと総合経営クラスの授業評価の値はほぼ同じであったが、建築クラスの値は若干低かった。履修者数がほぼ同じである建築クラスとスマートデザインクラスを比較すると、建築クラスの不合格率が約27%、スマートデザインクラスの不合格率が約17%であった。また、スマートデザインクラスの公欠19件に対し、建築クラスは100件であった。これらの数値は、統計学の現在の授業内容と建築学科学生のニーズにズレがあることを示していると思われる。具体的な改善内容については、2022年度の授業を進めながら検討していきたい。</p>
<p>L212012 統計学 D</p>	<p>①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。</p>	<p>対面 60分・オンデマンド 30分の授業を実施した。学習過程評価は3回の宿題(満点の合計が50点)、学習成果評価は50点満点のレポート試験である。2021年度は、有効数字の取り扱い方法について、繰り返し説明を行った。このため、すべての受講者が正しく有効数字を扱えるようになったとまでは言えないが、多くの受講生が有効数字を意識できるようになった。履修登録した70名中、11名が不合格(D,E,F評価)であった。</p>	<p>授業評価 4.43(4.4,4.3,4.5,4.5,4.4) 回収率 56.5% 科目 GPA2.64</p> <p>統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3クラスを開講している。今年度は、スマートデザインクラスと総合経営クラスの授業評価の値はほぼ同じであったが、建築クラスの値は若干低かった。履修者数がほぼ同じである建築クラスとスマートデザインクラスを比較すると、建築クラスの不合格率が約27%、スマートデザインクラスの不合格率が約17%であった。また、スマートデザインクラスの公欠19件に対し、建築クラスは100件であった。これらの数値から、統計学の現在の授業内容はスマートデザイン学科学生にある程度受け入れられていると思われる。2022年度も受講生の要望を聴取しながら授業を進めていきたい。</p>

L212013 統計学 B	<p>①標本調査等の統計的な手法について理解できる。</p> <p>②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。</p> <p>③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。</p>	<p>対面 60 分・オンデマンド 30 分の授業を実施した。学習過程評価は 3 回の宿題（満点の合計が 50 点）、学習成果評価は 50 点満点のレポート試験である。2021 年度は、有効数字の取り扱い方法について、繰り返し説明を行った。このため、すべての受講者が正しく有効数字を扱えるようになったとまでは言えないが、多くの受講生が有効数字を意識できるようになった。履修登録した 145 名中、26 名が不合格（D, E, F 評価）であった。</p>	<p>授業評価 4.45(4.5, 4.4, 4.4, 4.4, 4.5, 4.5) 回収率 43.1% 科目 GPA2.31</p> <p>統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の 3 クラスを開講している。今年度は、スマートデザインクラスと総合経営クラスの授業評価の値はほぼ同じであったが、建築クラスの値は若干低かった。総合経営クラスの履修者数と、建築クラスとスマートデザインクラスの履修者数の合計はほぼ同じである。総合経営クラスの不合格率は約 18%であり、スマートデザインクラスの不合格率約 17%とほとんど差がない。これに対して科目 GPA には 0.3 以上の差がある。この数値は、総合経営クラスの受講生の授業に対する理解が十分でないことを示している。このため、2022 年度の授業では、受講生が前向きに取り組めるような授業運営をしていきたい。</p>
S212007 経営の基礎Ⅱ	<p>他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。</p> <p>経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。</p> <p>講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。</p>	<p>対面 60 分・オンデマンド 30 分の授業を実施した。2021 年度の授業も、ある人物の伝記を読みその人物が組織の中でどのように生きたかについて受講生と話し合うという形式で進めた。受講生の学習履歴が多様であるため、テキストに書かれている内容を理解することで満足しなければならぬ場合があった。履修登録した 36 名中、9 名が不合格（D, E, F 評価）であった。</p>	<p>授業評価 4.20(4.4, 4.1, 4.2, 4.2, 4.1) 回収率 38.9% 科目 GPA1.69</p> <p>2021 年度は、企業経営者 3 名を含む計 4 名の伝記を教材とした。2022 年度も伝記を読む授業を計画しているが、受講生が将来、組織の中で活動する際に手本になるような人物を選択する予定である。</p>
S212048 専門ゼミナールⅣ（新カリ）	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。</p>	<p>対面 60 分・オンデマンド 30 分の授業を実施した。母平均の検定等の統計学の基本的な手法を学んだ後に、その手法を利用して解決できる問題を作成・解決させるという形式の授業を行った。その手法を利用して解決できる問題がどのような問題なのかを伝える点に苦勞した。</p>	<p>授業評価 4.74 (4.7, 4.7, 4.8, 4.6, 4.9) 回収率 83.3% 科目 GPA3.50</p> <p>2022 年度には、問題解決に利用する統計学の基本的な手法を、母平均の検定、母比率の検定、母平均の差の検定の 3 つに増やす予定である。</p>
S212069 卒業研究	<p>論理的な思考ができるようになる。数学的に問題を解決することができる。</p>	<p>対面 60 分・オンデマンド 30 分の授業を実施した。国外入試に合格し、来日できない 3 年次編入生が 2 名、新型コロナウイルスへの感染を回避するため欠席を希望した受講生が 1 名いた。これらの受講生に対しては、直接話せば簡単に伝えられることが伝えられずもどかしい思いをした。</p>	<p>授業評価 4.60 (4.9, 4.1, 4.5, 4.9, 4.6) 回収率 66.7% 科目 GPA3.33</p> <p>2021 年度は授業評価アンケートへ回答するよう繰り返し指示したためか、2020 年度と比較するとアンケートの回答率が向上した。統計学の基本事項の勉強を、卒業論文の作成を開始してから始める受講生が多かった。2022 年度は 4 年生の前期から、統計学の基本事項を確認させる課題を出題したいと思う。</p>
S212014 簿記Ⅰ【開放】 商教必	<p>「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引(株式会社の会計処理を含む)を理解することができる。</p> <p>試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。</p>	<p>総合問題を最後に行い、1 冊の簿記全体の流れを理解してもらうために授業時間内に評価テストなどを行った。全体の意味が理解できたと考えている。</p>	<p>授業評価 4.17(4.3, 4.0, 4.1, 4.2, 4.2) 回収率 47.2%</p> <p>科目 GPA2.39 (F 以外 2.51) 授業時間も充分とれるようになったため、学生の理解度確認しながら、わかりやすい説明をしていきたいと思う。</p>

S212017 コンピュータ会計 商教選	証憑などの領収証や納品書などで仕訳をして、会計ソフトに表示される財務諸表のデータを読み取り、問題点を解決できる。企業の現状分析や、短期利益計画、資金繰り表の作成まで理解し、会計ソフトを活用できる。	パソコン操作の授業は、個々の理解度が異なるので1年次にさぼった学生は苦勞したようだ。これらの学生に時間を費やしてしまったので、次年度は事前に宿題を提示していく。	授業評価 4.6 (4.6、4.5、4.6、4.6、4.6) 回収率 62.0% 科目 GPA2.98 (F 以外 3.24) 授業時間も充分とれるようになったため、学生の理解度確認しながら、わかりやすい説明をしていきたいと思う。
S212032 専門ゼミナールⅡ (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	簿記検定3級と2級の指導を実施した。個々の学生対応になった為、自主性を尊重した。ベトナム人留学生が日商簿記検定2級合格したことは今回のやり方が正しかったと考えている。	授業評価 4.25 (4.3、4.3、4.3、4.3、4.3) 回収率 33.3% 科目 GPA3.08 (F 以外 3.36) 授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考え。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。
S212039 企業データ分析と活用 商教選	経営比率分析の手法と意味・意義を理解し、企業の財務状況の判断ができる。企業経営の診断の基礎を学習し、マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることができる。	起業評価の分析手法を説明した。古語学生は最後に自分の興味を持った企業の財務諸表を調べ、どのような状態なのかを知ることができたと考えている。	授業評価 4.31 (4.4、4.3、4.2、4.3、4.2) 回収率 56.1% 科目 GPA2.70 (F 以外 2.83) 学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題の未提出者や定期試験の未提出者が多かったので見直す必要がある。
S212053 専門ゼミナールⅣ (新カリ)	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	ユーチューブの動画配信方法やPPTの自己紹介動画作成を行った。まじめに取り組んだ学生は、早く就職内定をもらい両親からお礼の連絡をもらった。	授業評価 4.70 (5.0、4.5、4.5、4.8、4.8) 回収率 40.0% 科目 GPA3.00 (F 以外 3.00) まじめに取り組む学生とそうでない学生があるため、不真面目な学生をいかに真剣に取り組ませるか課題となった。
S212067 情報化と経営	ワード、エクセル、パワーポイントを活用しながら、現代の企業分析・市場分析に関わるデータ処理を主体的に行うことができる。	事務津で行う操作を学習したので学生がまじめに取り組んだ。	授業評価 4.13 (4.0、3.8、4.0、4.3、4.5) 回収率 40.0% 科目 GPA2.73 (F 以外 3.15) 旧カリのため、最後であったが、4年次配当は就活による公欠が多く、対応に苦慮した。
S212074 卒業研究	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	論文のテーマ設定、情報収集、論文構成の作成、発表の仕方等について指導した。個人差はあるが、各自が設定したテーマについて、収集した資料から考察を行い、その結果を他者に伝える力が身についたように思われる。	授業評価 4.96 (5.0、4.8、5.0、5.0、5.0) 回収率 100.0% 科目 GPA3.2 (F 以外 3.2) 各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けた。
S212084 戦略思考Ⅱ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	ユーチューブの動画配信や自己紹介動画の作成、編集を行った。興味のある内容は真剣に取り組んでくれることが分かった。	授業評価 4.37 (4.5、4.2、4.4、4.5、4.4) 回収率 59.1% 科目 GPA3.36 (F 以外 3.52) 簿記検定受験者と別々の指導を行ったので指導が大変だった。次年度は、1つに絞って対応していきたい。

L202002 キャリアデザインⅡ 旧 カリ3学科合同	意欲的な人生設計の実現に向けた実践的な行動がとれるように、社会への入り口に必要基礎知識を理解することができる。	再履修1名の参加であった。4年生であったため、個別に説明しながら、就職に向けて解説した。	1名のみ履修でアンケート未提出
S212006 経営の基礎Ⅱ	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 ④高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につける。	毎週、1時間の対面授業を行った。毎回の演習課題（授業内課題）に学生は取り組み、きちんと提出してくれた。留学生の何人かが「2年生のゼミも、先生のゼミを取りたい」と言ってくれた留学生が何人かいたことが嬉しかった。また、2年次のゼミ選択や留学生たちの大学生生活への不安や悩みの相談役としてコミュニケーションを取ることができた。	授業評価 4.750 (4.8、4.6、4.6、4.9、4.9) 回収率 50.0% 履修した留学生とのコミュニケーションは、毎週、対面授業でよく取れていたため、特に改善すべき点はないと思われる。
L212015 英語コミュニケーションB【A, SD】	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者が100人を超えたが、対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をPPの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を進めた。また、授業終了前に、ユニットの演習課題（授業内課題）を配布し、次週、課題を提出するよう求めた。その後、学生が提出した課題（授業内課題）を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生の机の上に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、ある程度高度で生きた英語の授業を展開することができた。	授業評価 4.543 (4.5、4.5、4.6、4.5、4.6) 回収率 63.8% 105人の受講者に対して1時間という短い対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをする時間を取ることができなかった。それでも、学生（回答率63.8%）の本授業に対する満足度（評価）は高かったため、今後は、受講者を50人以下に制限して、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語力を伸ばすことを目指したい。
S212086 戦略思考Ⅱ	①与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 ②他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 ③現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身につけることができる。	毎週、1時間の対面式授業を行った。毎回、学生は単元の授業内容を理解しながら、各単元にある役に立つ英語表現をCDについて発音練習をした。ただ、ペア練習やグループ練習は、コロナ禍の状況では行うことができなかった。授業最後に配布した演習課題（授業内課題）や宿題（授業外課題）を、期限の次週までに提出してくれた。また、毎週の対面授業には、ほとんどの学生が出席して、受講した3年生は真剣に取り組んでいた。	授業評価 4.240 (4.3、4.3、4.2、4.2、4.2) 回収率 80.0% 日本人学生と留学生とのコミュニケーション活動が行うことができると学習効果が高められるので、今後、1時間半の授業で実施できるとよいと思われる。

<p>2052 専門ゼミナールⅣ【新カリ】</p>	<p>①経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>本ゼミナールでは、ビジネスにおいて不可欠である異文化コミュニケーション力とは何かについて調査・研究を行い、グループで口頭発表することをメインの学習内容としている。13人のゼミ生の内訳は、ネパール人留学生6人、中国人留学生6人、スリランカ人留学生1人である。それぞれの国や文化的背景が異なる学生たちが、個人で選択したテーマに向かって研究発表に取り組むことを学習の柱とした。 その結果、学生たちそれぞれの国のビジネス上の文化的特徴を見つけ出し、それが他の国の文化的比較をすることで、どんなことに注意するとコミュニケーション力が身につけられるかについて発表できたように思われる。</p>	<p>授業評価 5.000 (5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 7.7%</p> <p>ゼミ生は毎週の授業に皆出席して、演習課題(授業内課題)や宿題(授業外課題)を提出し、プレゼンテーションも比較的満足できるレベルであったので、今後も引き続いて高い評価を得られるよう努めたい。</p>
<p>S212073 卒業研究</p>	<p>①企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>毎回テキストに基づいて、論文作成のステップ・バイ・ステップ方式で授業を展開した。受講生は毎週書き足した論文を受講者全員の前で読みながら、修正すべき箇所を述べた。それを持ち帰って、次週、修正した論文を添付ファイルで送信して、再度受講生の前で読み上げ、修正箇所が本当に修正されているのかを確認するという一連の作業を繰り返し行った。 ただ、中間発表会はゼミ内で行ったが、コロナ禍の影響で審査発表会はできなかった。中間発表会に際しては、事前に何度もリハーサルを行い、パワーポイントのスライドの修正を行い、時間内に発表できるようになるまで、繰り返し練習をさせた。また、卒論審査発表会はゼミ合同で実施できなかったため、ゼミ内で個別に卒論発表会を行った。</p>	<p>授業評価 4.900 (4.5、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 80.0%</p> <p>ゼミ生は毎週の授業に皆出席して、演習課題や宿題を提出し、プレゼンテーションもある程度満足できるレベルであったので、今後も引き続いて学生から高い評価を得られるよう努めたい。</p>
<p>S212073 卒業研究</p>	<p>①企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>毎回テキストに基づいて、論文作成のステップ・バイ・ステップ方式で授業を展開した。受講生は毎週書き足した論文を受講者全員の前で読みながら、修正すべき箇所を述べた。それを持ち帰って、次週、修正した論文を添付ファイルで送信して、再度受講生の前で読み上げ、修正箇所が本当に修正されているのかを確認するという一連の作業を繰り返し行った。 ただ、中間発表会はゼミ内で行ったが、コロナ禍の影響で審査発表会はできなかった。中間発表会に際しては、事前に何度もリハーサルを行い、パワーポイントのスライドの修正を行い、時間内に発表できるようになるまで、繰り返し練習をさせた。また、卒論審査発表会はゼミ合同で実施できなかったため、ゼミ内で個別に卒論発表会を行った。</p>	<p>授業評価 4.900 (4.5、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 80.0%</p> <p>ゼミ生は毎週の授業に皆出席して、演習課題や宿題を提出し、プレゼンテーションもある程度満足できるレベルであったので、今後も引き続いて学生から高い評価を得られるよう努めたい。</p>

<p>S212038 労働法</p>	<p>労働法の知識を活用して、遭遇するであろうさまざまな職場のトラブルに際して、リーガルマインドをもって、冷静に法的対処をすることができる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。</p>	<p>労働法は、2年生の選択科目であり、企業経営あるいはこれから就職する者にとって重要な科目である。授業は、おおよそ計画通り比較的円滑に進めることができた。講義映像などを取り入れ、遠隔授業も工夫して講義レベルを維持し、概ね予定通りの教育効果が得られた。労働問題の本質を考察することを目的とし、学説や判例の検討などを多く取り入れたが、この点は理解があまりできていなかった。労働基準法を概観することで、問題点を認識し、法的な解釈は一定レベル得たようである。</p>	<p>授業評価 4.47(4.6、4.3、4.4、4.5、4.5) 回収率(52.3%) 科目 GPA2.36</p> <p>学生が労働問題をより身近に感じられるよう、最新の新聞記事や判例を講義に取り入れていきたい。</p>
<p>S212054 専門ゼミナールⅣ(新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>企業法の基礎知識について、文献を活用して議論することで、具体的な論点を掘り下げることができた。こうした学習を通じて、レジュメ作成、プレゼンテーション資料作成の基礎を学ぶことができた。様々な意見に触れることで、一定程度の問題の本質に触れることができたようである。また、就職のためのビジネス実務マナーについても、検定試験問題集を通じて学ぶことができた。</p>	<p>授業評価 4.82(4.9、4.8、4.8、4.8、4.8) 回収率(100.0%) 科目 GPA4.00</p> <p>就職のためのビジネス実務マナーについては、興味をもって取り組んでいたようなので、希望者には2級合格に向けてより対策を強化していきたい。</p>
<p>S212075 卒業研究</p>	<p>企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格あるいは公務員試験対策を通じて、専門的スキルを培う。</p>	<p>これまでの学習の集大成として、前期からの各学生が選択した労働法のテーマについて、それぞれのペースで研究を進めていった。主要な参考文献と最新判例の選定をもとに、効果的な論文構成を目指して指導した。最終的に、卒業論文として全員が合格点には到達することができたが、完成予定日より時間もかかった。よりよい論文を目指した結果であり、内容として評価に値する論文には到達したと考える。</p>	<p>授業評価 4.60(4.8、4.5、4.5、4.8、4.5) 回収率(100.0%) 科目 GPA3.50</p> <p>卒論作成において、学生がより主体的に調査してプレゼンテーションできるように、指導方法を工夫したい。</p>
<p>S212033 専門ゼミナールⅡ(新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援する。</p>	<p>労働法の専門知識について、判例集を活用して争点を議論することで、その論点を掘り下げることができた。こうした学習を通じて、レジュメ作成、プレゼンテーション資料作成のスキルをあげることができた。学術論文にみられる判決に対する批判的な意見にも触れることで、問題の本質に触れることができたと考える。また、就職のためのビジネス実務マナーについても、検定試験問題集を通じて学ぶことができた。</p>	<p>授業評価 4.75(4.9、4.5、4.8、4.8、4.8) 回収率(94.1%) 科目 GPA4.00</p> <p>判例研究において、学生がより主体的に取り組み、プレゼンテーションできるように指導方法を工夫したい。</p>

<p>S212016 法学概論</p>	<p>法の解釈など、法学習の基本的取り組み方やリーガルマインドについて理解することができる。遭遇するであろう様々な法的局面で適切に対応することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。</p>	<p>法学概論は、1年生の選択科目であり、今後法律科目を学習していく上で重要な科目である。授業は、おおよそ計画通り比較的円滑に進めることができた。講義映像を活用することで遠隔授業を工夫して講義レベルを維持し、概ね予定通りの教育効果が得られた。企業にかかわる法律を学習していくために、基礎となる法学の基本を学ぶことを目的とした。法律用語が難しく、理解しにくいところもあった。法学を概観して、様々な法律の主な問題点を理解し、法的思考力は一定レベル学ぶことができた。</p>	<p>授業評価 4.58(4.6、4.5、4.6、4.6、4.6) 回収率(29.1%) 科目 GPA2.41</p> <p>学生が法律問題をより身近に感じられるよう、最新の新聞記事や判例を講義により取り入れていきたい。</p>
<p>S212002 企業と CSR</p>	<p>企業が発展するにつれて、自らの社会的責任を果たす必然性が出てくることを理解することができる。企業の社会的責任(CSR)の内容について理解することができる。企業が発展するにつれて、社会的責任を果たす必然性がどの様に生じていくかを理解する。企業の社会的責任の内容はどの様なものであるかを理解する。企業の社会的責任の源流について理解する。</p>	<p>2年ぶりの対面授業方式での実施となり、一部学生は遠隔受講となったものの、60分授業ながら伝えたいことは遠隔授業時に比べれば伝えやすいという実感を得ることが出来た。ただ60分授業故に余り手数を掛けずに進める必要があったので、対面授業ならではの「寄り道」的な話が余り出来なかった。授業資料の方では、テキストのどの部分が該当するか、頁番号を表示し学習しやすい様試みた。</p>	<p>授業評価 4.35(4.5、4.4、4.3、4.3、4.3) 回答率 38.3%</p> <p>昨年度より評価は高めに出了たものの、回答率は下がってしまったので、どれだけ信頼性があるかについては何とも言えない所である。ただ時間内で要点を伝えられるだけ伝えることには留意していたので、その事に一定の評価が得られたのであるとすれば有難い。もっとも次年度は90分授業に戻ることが確定しており、その場合ボリューム的に物足りなくなるとは確実なので、毎回の授業内容の充実化が一層課題になると考える。</p>
<p>S212045 現代マネジメント講義 II</p>	<p>現役経営者の講義から、将来自分が経営者・管理者に就任した時に必要な経営実践のヒントを学び取ることができるようになる。講義内容の要点を授業時間内課題に的確にまとめられることができるようになる。実社会で活躍される現役経営者のお話から、経営という仕事にはどのようなことが求められるのかを学び取り、自らのビジネスパーソンとしての教養及び経営実践能力の向上に反映させることを目的とする。</p>	<p>前身の経営哲学特講IIから名称変更となり、対面授業も全面解禁となったものの、コロナ感染防止を目的とした公欠申請者(遠隔授業受講者)の数は留学生を中心に前期以上に多く出てしまい、本来の受講者の3分の1は教室で受講しない事態になってしまった。自宅で動画視聴する方が(途中で任意停止が可能なこともあり)理解し易いことが背景にあると考えられるが、本講義ならではの特別講師講義のライブ感を味わってもらえないことは科目担当者として残念に思う。講義自体は1回1回聴き応えがあった。</p>	<p>授業評価 4.53(4.6、4.5、4.5、4.6、4.5) 回答率 56.6%</p> <p>評価値は昨年度よりも高く、また回答率が昨年度の31%に比べると大幅に向上した。対面授業方式に戻ったことが影響していると考えられ、また、対面授業を実際受講した学生を中心に、特別講師による講義独特の特別感に満足が得られたケースが多かったのではと考えられる。反面留学生の対面受講率が少なめで、次年度は如何に彼らの参加率を高めるかが課題として残っている。</p>
<p>S212027 専門ゼミナールII(新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。</p>	<p>昨年度のメンバーが全員留学生だったのに対し、今年度は日本人と留学生の比率が半々で、留学生も中国とネパールの比率が拮抗しておりバランスとしては良かった。また日本人学生に特に意欲的に取り組むゼミ生が目立ち、プレゼンも充実したものが多く、余り手のかからない学年だったと感じる。ただ一部遠隔授業受講者があり、彼らのフォローについてはゼミである分普通の授業以上にやりにくさを感じたのも確かである。</p>	<p>授業評価 4.46(4.7、4.2、4.3、4.5、4.5) 回答率 76.5%</p> <p>全員回答した訳ではないものの、まずまずの評価といった所か。自分で調べて発表することに面白さを感じてくれたとすれば、余り大したことはしていないとはいえず、一定の成果が得られたのではないかと考える。もっとも今年度はメンバーに恵まれた感もあるので、次年度のメンバー次第で新たな工夫が求められることになるのではとも感じている。</p>

<p>S212055 専門ゼミナールⅣ(新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>今年度は留学生が多めで、中国が最多勢力ながらベトナムやネパールの留学生もおり、特にネパールの留学生は高学年で初めて受け持つので日本語能力について正直な所懸念材料もあったが、意思疎通は普通に出来るレベルであった。日本人学生については本気を出せば一定の成果は出るものの、中々本気を出させることに苦労させられる場面もあった。</p>	<p>授業評価 4.49(4.6、4.4、4.6、4.3、4.6) 回答率 53.8%</p> <p>回答率が残念ながら低めなので信憑性が下がってしまいが、評価値自体はまずまずといった所か。国外在住の遠隔授業受講者も抱えたり、後期中から急に出席率が低下したゼミ生も出たりで、ゼミ生の成果という面ではバラツキが出てしまったことが残念である。この学年は次年度に卒業論文執筆を控えているので、少しでも卒論に向けて準備が整う様な仕掛けを考えていきたい。</p>
<p>S212076 卒業研究</p>	<p>CSR 関係の問題に関連したテーマを自ら制定し、そのテーマを調査・研究し解明していく。それによって社会に真摯に仕える能力を身につけることができるようになる。CSR 関連の学習の成果として、CSR や「企業と社会」絡みの分野の範囲内で各自卒論テーマを制定し、卒論作成を進めることを目的とする。そして社会に真摯に仕える能力を身につけてもらう。</p>	<p>昨年度のメンバーに比べると、留学生主体だったこともあってか卒論指導自体はスムーズに進められたゼミ生が多かった。ただ遠隔授業受講者や運動部系のゼミ生の指導においては意思疎通が上手く行きにくいこともあり、再試験で辛うじて提出にこぎ着けたゼミ生が出たりと苦労させられた。遠隔授業方式だとやはり卒論指導においてはそれだけでハンディになってしまうことを改めて実感させられた次第である。</p>	<p>授業評価 4.98(5.0、4.9、5.0、5.0、5.0) 回答率 72.7%</p> <p>全員回答した訳では無いが、数値だけみると自分でもビックリする程の高い評価値となった。今年度メンバーは留学生が多めで、彼らは得てして高めに評価する傾向があるのも確かであるが、無事卒業にこぎ着けることが出来たことへの感謝ということだろうか。卒論執筆の経験が今後の卒業生達にとっての糧となれば嬉しい。他方で再試験で漸く卒業にこぎ着けたゼミ生も出てしまったので、如何にメンバー全員の執筆意欲を引き出せるか、引き続き試行錯誤が続くのも確かである。</p>
<p>S212015 簿記Ⅰ</p>	<p>「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引(株式会社の会計処理を含む)を理解することができる。試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。</p>	<p>簿記の説明には図や表が必要である。また、問題の解答説明には、解答までの流れ(作業手順)の解説が必要である。したがって、板書で説明するのがよいと思われるが、大教室での講義だったため、ホワイトボードの解説は、受講生から見えにくく、使用できなかった。そこで、映し出したスライドに手書きしながら説明するという方法をとった。そうすることで、後ろの座席の学生にも、解答までの作業工程をみせることができたと思われる。</p>	<p>授業評価 3.9(4.1、3.6、3.8、4.0、3.8) 回収率 47.7%</p> <p>完成したスライドを用いた授業では、簿記の解答までの流れを説明できないため、スライドに手書きしながら説明を行ったが、そうすることで、机間指導ができなくなり、学生の理解を把握することが難しかった。簿記の解答までの流れを説明しながら、学生の理解を把握する工夫をしていきたい。</p>
<p>S212085 戦略思考Ⅱ</p>	<p>与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。</p>	<p>新カリキュラムの科目である。テキストをもとに、企業の決算書から、その企業の戦略やビジネスモデルを探る授業を行った。受講者が、会計に関心をもっており、また少人数であったこともあり、お互いにコミュニケーションを取りながら授業を進めることができた。</p>	<p>授業評価 4.88(4.8、4.9、4.9、4.8、5.0) 回収率 50.0%</p> <p>企業の戦略を探るにあたり、認知度の高い企業を対象とすることで、学生の関心と理解を得ることができたように思われる。また、学生とのコミュニケーションおよび学生同士のコミュニケーションが取れたことで、学習理解が進んだように感じた。次年度においても、意見をいえる雰囲気づくりに努めたい。</p>

S212056 専門ゼミナールⅣ（新カリ）	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	財務分析のテキストにそって、各自が関心をもち選択した企業の分析を行ったことで、企業分析の仕方、企業の状況の把握、5年間の企業数値の変化の読み取りについて、理解が深まったように思われる。	授業評価 4.67(5.0、4.7、4.3、4.3、5.0) 回収率 42.9% 財務分析の手法に各企業の数値をあてはめていくことに時間がとられたので、財務分析で得られた数値等の原因分析や、戦略の読み取り等に、より多くの時間を割いていきたい。
S212077 卒業研究	財務会計に関するテーマ設定、テーマに沿った資料収集・文献読解、卒業論文の作成をとおして、財務会計を体系的に理解できる。	論文のテーマ設定、情報収集、論文構成の作成、発表の仕方等について指導した。個人差はあるが、各自が設定したテーマについて、収集した資料から考察を行い、その結果を他者に伝える力が身についたように思われる。	授業評価 4.4(4.7、4.3、4.3、4.3、4.3) 回収率 60.0% 各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けた。
S212018 財務会計論	①財務会計の基本的な枠組みおよび会計特有の用語や概念を把握・理解することができる。 ②近年の会計制度の変化の主要な流れとその背景を理解することができる	スライドを用いた授業では、学生の集中力を維持できないので、ホワイトボードを用いた授業を行った。短縮の授業であったため、問いかけする時間が取れず、受講者の理解は、課題の回答でのみしか窺い知ることができなかつたが、財務会計の基礎的な概念等は、概ね伝えることができたように思われる。	授業評価 4.20(4.3、4.1、4.2、4.2、4.2) 回収率 59.4% 対面授業においても、スライドを用いた授業では、なかなか受講生の集中力を維持できないので、できるだけ板書しながら授業をするスタイルを維持していきたい。
S212011 経営の基礎Ⅱ	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	テーマ設定、資料収集、発表を行った。個人作業の間は、机間指導ができ、学生が質問しやすい雰囲気をつくることができた。また、学生同士のコミュニケーションの機会もえることができた。経営学の基本的考え方、専門用語等について、自分で調べて考察し、発表する機会を得られたように思われる。	授業評価 4.71(4.8、4.5、4.6、4.8、4.7) 回収率 65.0% 設定したテーマにそって、資料を収集し、考察し、その結果を発表するという機会をつくるよう心掛けたい。
S212013 日本の経営文化	①日本企業の経営にはどのような文化的背景があるのかを理解できる。 ②日本の経営文化がビジネスにもたらす影響を理解できる。	日本企業の事例をもとにして授業を進めたことで、経営学の基礎用語や日本の企業経営について関心をもち、理解が深まったと思われる。	授業評価 4.41(4.6、4.3、4.5、4.3、4.3) 回収率 52.3% 日本の企業経営の歴史を説明するため、とりあげた日本企業の事例が限定的だった。受講生の留学生世代でも知っているような、今時の事例を増やしていきたい。
S212047 国際経営と戦略	日本及び外国の事業会社の国際展開を学習し、国際的な視点で事業経営を理解できる。グローバル化が進展する中で、日系企業の歩みおよびその課題を理解することができる。	本科目は経営戦略論、組織論、マーケティングなどの応用科目であり、理論の解説より実践を重視し、多くのグローバル企業の事例を扱った。一方方向にならないよう、都度学生に問いかけることを心がけたが、受講生が多数であったこともあり、講義形式の授業となってしまった。	授業評価 4.563(4.6、4.5、4.6、4.6、4.6) 回収率 58.8% 受講生が多数となっても、双方向の要素を取り入れられるよう、工夫したい。
S212036 専門ゼミナールⅡ（新カリ）	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	受講生が少なかったため、他の学生とのコミュニケーションの機会がなかったことが、非常に残念であった。しかしながら、学外授業を実施し、現場からの情報収集の機会を設けることができた。現場の実態を把握し、自分なりに課題を見出すことができたと考えられる。	授業評価 5.00(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 100.0% 次年度は、グループワークをより多く取り入れて、コミュニケーション能力の向上を図っていきたい。

<p>S212062 専門ゼミナールⅣ(新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>教員が選定した文献の輪読を行った。文章を読み、要約を作成し、自分なりにコメントをつける、という作業ができない学生が多く、いかに興味をもたせるか難しい問題と考える。さらに短い文章で、文章を読むトレーニングをさせていきたい。</p>	<p>授業評価 4.72(4.8、4.8、4.8、4.6、4.6) 回収率 62.5% 次年度は、グループワークをより多く取り入れて、コミュニケーション能力の向上を図っていきたい。</p>
<p>212039 スポーツ B B</p>	<p>達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。</p>	<p>受講者数が6名と少ないことから、2種目にて授業を展開した。実技を行う上で適正な種目として、バドミントンと卓球を選択した。少ない受講者ではあったが、受講生は積極的に取り組んでくれた。授業前に、予習課題として、授業で行う技術や戦術について、各自で調べることで、授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ちながら、調べただけでは理解不足な点を、授業の中で学ばせることができたのではと考える。学んだことをゲームで発揮してみることで、新たな課題や、課題解決を模索させられたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、時間的な配分も学生の状況に合わせて実施した。</p>	<p>授業評価 5.00(5.0、5.0、5.0、5.0、5.0) 回収率 66.7% 実際の成績に比例はしているが、成績評価以上に、授業評価が高かった。授業評価回答率が66.7%で、多少、授業評価が高い(達成目標の達成度が高い)学生に回答が偏った可能性も否定できない。スポーツが不得意な学生もいるため、技術練習において、より適切なアドバイスを与えながら、自身で成長を実感させられるよう工夫していきたい。</p>
<p>L212001 スポーツ経営管理論</p>	<p>達成目標 スポーツ経営・管理の基礎理論を身につけることができる。領域に応じたスポーツ経営・管理の実践スキルを身につけることができる。 スポーツにおける「戦略・マーケティング・組織、管理、ビジネスの仕組み」の基礎段階として、本講義では経営管理の基礎的な内容から、スポーツの特殊性を考慮した内容まで論理的に理解する。</p>	<p>経営分野の中でも、スポーツに関する内容について取り扱う科目となる。主に、経営学の基礎的な内容をスポーツに照らし合わせ内容を構成した。1年次開講科目であることから、経営に関する基礎知識をまず取り上げ、それらの解説を多く取り入れた。他の科目と重複する内容を踏まえたものとなるが、履修者にとっては繰り返しとなり、復習となっていたようである。また、それらの理解度により、評価に差が出たと感じている。一般的な経営とスポーツの経営には共通する点も多数あるが、それらを理解した上で、スポーツの経営を捉えられるよう、授業内容を構成した。これらの点でスポーツに関する経営への理解度は、ある程度深まったと感じている。</p>	<p>授業評価 4.592 (4.7、4.4、4.6、4.7、4.6) 回収率 32.5% 授業評価回答率が32.5%であり、全体の評価を反映したものとは捉えられないが、回答した者については、概ねよい評価であったと考えている。 今後も、一般的な経営に関する内容を織り交ぜ、スポーツに関する経営について、昨今の事情も踏まえつつ授業内容を構成していきたいと考えている。また、何らかの企画や運営に関する実践的な内容も取り入れていきたい。</p>

<p>L212025 個人スポーツ演習</p>	<p>個人スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 個人スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 個人スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、各自の技術を駆使して試合のレベル向上のための方法を考える事ができる。</p>	<p>スポーツ種目の中の主に個人種目について学ぶ演習形式の科目である。個人スポーツとして、硬式テニスと卓球を展開した。個人やグループでの練習活動における基本的な技術を身につけ、戦略や戦術を工夫してその成果をゲームの中で確認しながら個人技術、戦略・戦術の理解、向上を目指した。実際に活動する回数は多くはないが、基本的な技術を身につけることを中心に、それらを活かした戦術や戦略を駆使することで、より高いレベルのゲームを追求することに繋がったと考えている。実際に受講者は技術的にも向上した印象があり、より個人スポーツの特性にふれた楽しさを味わい、理解することができたのではないかと考えている。</p>	<p>授業評価 4.650 (4.7、4.5、4.6、4.9、4.6) 回収率 33.3%</p> <p>授業評価回答率が 33.3%であり、全体の評価を反映したものとは捉えられないが、回答した者については、概ねよい評価であった。 比較的容易に実施することができる個人スポーツのうち、硬式テニスと卓球を展開した。受講者の中には経験の浅い者が多く、基本的な技術を身につけることでゲームの中での楽しさを実感できていたと思われる。今後は、基本的な技術や戦術をより理解しやすい内容にし、加えて応用技術や戦術についても多く取り入れた内容を構成していきたいと考えている。</p>
<p>S212035 専門ゼミナールⅡ (新カリ)</p>	<p>経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。</p>	<p>ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。 レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。 今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。</p>	<p>授業評価 4.25(4.3、4.0、4.3、4.4、4.4) 回収率 50%</p> <p>対面形式でのゼミナールを実施することができたことから、解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もある。今後は、難易度の高い課題を取り入れる際には、履修者の思考力や読解力、PCスキルの状況を見極め、解説等の量を増やし、理解度の向上につなげていきたいと考えている。</p>
<p>S212041 スポーツ社会学</p>	<p>達成目標 社会におけるスポーツの役割や価値・意義について理解できる。 私たちが生きる社会とスポーツとの関わりを学ぶ。スポーツの肯定的な部分だけでなく、否定的な部分についても言及し、社会におけるスポーツの役割や価値・意義について社会的な視点で考察していく。</p>	<p>3 年次開講科目であることから、スポーツと社会との関わり、社会におけるスポーツの在り方、それらに関する歴史や制度等について取り扱う内容とした。これまでの経営に関する科目の内容、およびスポーツに関連する科目の内容を随所に織り交ぜた内容を構成した。 内容としては、社会学であるため、多少難解な部分もあるが、受講生にわかりやすく理解できるような構成や資料の作成を心がけた。履修者自身が置かれている状況やこれまでの経験などと照らし合わせることで、現在までのスポーツと社会との関わりについて理解が深まったのではないかと考えている。</p>	<p>授業評価 4.950 (5.0、4.8、5.0、5.0、5.0) 回収率 40%</p> <p>授業方法として、全ての回を原則対面とし、希望者には遠隔対応にて実施した。授業資料や課題の内容等について、対面時と遠隔対応の内容を維持するように意識した。達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要だと考える。今回は履修者が 10 名と少ないことから、より対話を実施することができた。今後は履修者数が増えた際の授業内容や方法について再考し、より理解が深まるようにしていきたいと考えている。</p>

<p>212060 専門ゼミナールⅣ(新カリ)</p>	<p>達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。 レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様に、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。 今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。</p>	<p>授業評価 4.0 (4.0、4.0、4.0、4.0、4.0) 回収率 20%</p> <p>対面でのゼミナールということで、解説と課題作成、次年度の卒業論文の執筆につなげていくことができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心掛けた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くとるように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。</p>
<p>S212065 スポーツ事業論</p>	<p>達成目標 スポーツ事業を企画し、提供するノウハウを身につける。スポーツマネジメントの実践的学習。ビジネスパーソン(特に、スポーツ関係従事者)に必要なスキルを活用し、行動できることを目指す。</p>	<p>年次開講科目であることから、これまでの経営に関する科目の内容、およびスポーツに関連する科目の内容を総合的に織り交ぜた内容を構成した。これまでの内容を復習し、実際のスポーツ事業を企画、運営するプランを検討する課題を提示した。1つの事業を企画、運営する手順や、そのポイントを履修者自身が考えて、様々なプランを作成した。実際に実現可能かどうかは別として、履修者同士がディスカッションしながら、様々なプランを検討する中で、プラン作成からその運営までに必要なスキルを身につけることができたのではないかと考えている。</p>	<p>授業評価 4.569 (4.8、4.5、4.5、4.5、4.6) 回収率 48.1%</p> <p>授業評価回答率が 48.1%であり、全体の評価を反映したものとは捉えられないが、回答した者については、概ねよい評価であった。 4年次開講科目でもあることから、今後は、スポーツ事業に限らず、様々な事業を企画、運営できる力を身につけられるよう、実践的な内容をより多く取り入れていきたいと考えている。</p>
<p>S212081 卒業研究</p>	<p>達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。 体育・スポーツを経営学、経済学、社会学、健康科学、医学といった様々な視点から捉え、社会における体育・スポーツの意義を考え、問題点を分析し、解決策を探求していく。</p>	<p>ゼミナール形式で、前期の専門ゼミナールⅣから引き続き、前半は卒業論文の各自のテーマに沿った資料収集と卒業論文の執筆を行った。そして、収集した資料および卒業論文についてまとめ、発表することを繰り返し行った。後半は、執筆している卒業論文の完成に向けて、添削と修正を繰り返し行った。 資料収集に苦労する者もいたが、文献検索の方法の指導や参考資料を提供することで、資料収集のスキルはある程度身についたと思われる。しかし、収集した資料を読解し、精査することについては、もう少し時間をかけて取り組めるようにした方が良かったと感じている。また、これまでも繰り返し行ってきたプレゼンテーション資料の作成や発表については、当初に比べ向上したと感じている。 今後は、資料の読解と卒業論文の執筆方法について、早い時期から取り組むことができるよう、前期から構成を検討していきたいと考えている。</p>	<p>授業評価 4.733 (4.3、4.7、4.8、4.8、5.0) 回収率 85.7%</p> <p>対面でのゼミナールと言うことで、解説と課題作成、卒業論文の執筆を効率良く進めることができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心掛けた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くとるように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。</p>

<p>L212020 日本語上級</p>	<p>日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。</p>	<p>履修者を出身国別に見ると、漢字圏である中国、非漢字圏であるネパール、ベトナムであった。全体的におとなしくて真面目な学生が多く、私語やスマホに走るような学生はいなかった。大きな文字で板書し、一見優しい漢字語にも振り仮名をつける、などの工夫をした。同じ漢字でも日本語と中国語とでは異なる例が多い点を教えると、中国とベトナムの学生もとても興味深いと言っていた。</p>	<p>授業評価 4.9 (5.0、4.9、5.0、4.9、5.0) 回収率 46.7%</p> <p>「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく習得させることに気を配った。おとなしくて真面目な学生は多いが、会話力は今一つ。彼らに自信をつけさせようと、ほめ言葉を忘れないように心がけた。授業評価は前年が 3.8 だったので、数字を見る限り効果は出たようである。次年度に向かっては、このようなタイプの学生がより積極的に発話するよう工夫していきたい。</p>
<p>S212005 経営の基礎Ⅱ</p>	<p>他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方や専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。以上3点を到達目標としている。高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につけることを教育効果としている。</p>	<p>学生は全員、海外出身の留学生。経営学の基礎となるものについて少しでも身につけさせるように工夫した。具体的には、例えば、海外出身で日本で成功した事業家安藤百福などを取り上げ、彼らの経営方式について一緒に調べたり、感想を述べ合ったりした。同じ海外出身の成功者を組上に載せたことにより、留学生たちは授業に意欲的に取り組んだと思う。</p>	<p>授業評価 4.6 (4.9、4.5、4.8、4.5、4.5) 回収率 40.0%</p> <p>コロナ禍にある中での対面授業。彼らが感染を恐れて通学を避けることがないように気を配った。海外出身で日本で成功した事業家はそれほど生前大変な苦労を重ねたことを強調した。それは前年にはなかったやり方であり、コロナ禍にある留学生を奮起させる力になったと思われる。次年度に向かっては、この経験をもとにして、学生たちがより積極的に授業参加するよう工夫していきたい。</p>
<p>L212008 プレゼンテーションツール再履修</p>	<p>ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。課題発見、問題解決にICTを活用することができる。社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。以上3点を到達目標としている。現代社会において、コンピュータは社会生活に欠かせない重要なツールとして、誰もが利用できることが望まれている。特に、ネットワークに関することやワープロ・表計算・プレゼンテーションのソフトの活用は、個人はもとより企業活動にとって必要な要件になっている。コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを教育効果としている。</p>	<p>この授業を担当して3年目だった。2年の経験を経て、慌てたり焦ったり場面はほとんどなく、落ち着いて授業をすることができた。テキストのどのページにどんなことが書いてあるかを肌感覚でつかむことができ、スムーズな授業運営に役立った。</p>	<p>授業評価 4.6 (4.7、4.7、4.5、4.6、4.6) 回収率 41.9%</p> <p>履修者のほとんどは留学生のため、なるべくわかりやすい言葉を用いて授業を進めた。日本人学生にとってもわかりやすかったと思う。学生一人一人の間にはレベル差があったので、授業内課題が早くこなせる学生に対しては、そうではない学生を積極的にサポートするように指導した。その際、教えることは極めて効果的な学びの方法であることを強調した。次年度に向かっては、この経験をもとにして、学生たちがより積極的に授業参加するよう工夫していきたい。</p>

<p>U212003 三河のまちづくりと観光</p>	<p>観光とは社会的、文化的現象のひとつであり、現代観光の仕組みや役割・影響・特長、観光を支える事業活動である観光事業を含め、観光に関する基礎的な知識を幅広く習得し、その全体像をつかむことを目的とします。観光産業の構成と特徴を理解することができる、観光政策と観光行政を理解し、観光と地域社会との関係性を理解することができる。三河地域のまちづくりと都市再生のアイデアを提案できる。</p>	<p>教員 2 名（高木先生と）による授業で、3 学科共通科目であり、それぞれが学習する専門分野の素材としてまちづくりに関心を持たせ、各学科における専門分野を踏まえうえて、それぞれの学科の特徴を聞ける授業である。建築だけではなく、経営も、デザインも勉強できる科目として、対面 60 分・オンデマンド 30 分の授業では十分に達成できたとは言いがたい状況であった。またゲストスピーカーの先生方（地域で活躍する方から直接話を聞ける）ことに大変関心を示していた。また三河地域の一つの観光地或いは公共施設、商店街、一つの店などの現状について調べ、調べた内容に基づいて提案をし、発表できたことにより、今後社会人となってから必要となるプレゼンテーションについても取り組むことが出来てよかった。</p>	<p>授業評価 4.558 (4.8、4.1、4.5、4.8、4.6) 回答率 52.2%</p> <p>昨年の評価は 4.20 回答率は 51%と比較すると、アンケートの回答率、評価ともに向上した。概ね良好な評価を得たので、これまでと同様の方式で続けていきたい。授業アンケートの結果などを参考にして、3 学科の学生が満足できる授業を目指したい。また 3 学科の学生それぞれが関心を持つ事について考慮しながら、学科を超えた学生同士の交流ができるような授業を工夫していきたい。</p>
<p>S212034 専門ゼミナールⅡ（新カリ）</p>	<p>ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。</p>	<p>対面 60 分・オンデマンド 30 分で授業を実施した。コロナ禍により学生同士の交流が減っている状況で、学生のグループワークの時間をより多く取るようにした。ゼミ生一人一人が学習した経営学的観点から、関心のあるテーマを選ばせ、指導中はディスカッションを取り入れ、互いが興味をひく発問にペアワークで答えさせる機会を設け、議論した内容を発表させた。最終的には個人発表をするテーマに繋ぎ、ゼミ生が自主的に学習できるように工夫した。</p>	<p>授業評価 4.7771 (4.6、4.9、4.6、4.9、5.0) 回答率 77.8%</p> <p>昨年の評価、回答率と比較すると、アンケートの回答率、評価ともに向上した。概ね良好な評価を得たので、これまでと同様な方式で続けていきたい。授業アンケートの結果などを参考にするとともに、受講生たちに合わせて SNS できめ細かく個々に対応していきたいと考えている。</p>
<p>L212019 日本語中級 留学生対象</p>	<p>大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学び、日本語能力試験 N 2 合格以上を目標とします。</p>	<p>昨年履修登録者は 3 名だったが、皆一度も受講しなかった。授業評価 回答無し 今年の履修登録者は 1 名で、初回から受講しなかった。少しでも日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけられる授業にして行きたかった。</p>	<p>授業評価 2.200(5.0、2.0、2.0、1.0、1.0) 回答率 100%</p> <p>昨年履修登録者は 3 名だったが、皆一度も受講しなかった。授業評価 回答無し 今年履修登録者は 1 名だったが、初回から受講していないため、この授業アンケートの結果をどう受け取るべきかが難しい。</p>

<p>S212057 専門ゼミナールⅣ(新カリ)</p>	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。</p>	<p>8人のゼミ生ほぼ全員100%の出席率で、3年生から卒業論文のテーマを決めるための準備という位置づけだった。それぞれが関心のある事柄について情報収集し、まとめ、発表を行った。それぞれの関心事について調べ、まとめ、パワーポイントを使用して発表させるという方式で進めた。発表内容について、質問し話し合い、レクチャーしていった。学生自身の良く知っている分野を扱うように取り組んだので、積極的に取り組んでいたと思う。</p>	<p>授業評価 4.967(5.0、4.7、4.8、5.0、5.0、5.0) 回答率 75%</p> <p>8人のゼミ生で、6人がアンケートに回答した。概ねいい評価だった。一人だけ欠席がちな学生がいて、なかなか全員揃ってのゼミ指導ができなかった。その学生には保護者ともコミュニケーションを取りながら、個別指導をし、大学生活を続ける意欲をだしてもらえよう学生に寄り添うことに努めた。また留学生の一人はコロナ禍の影響で、アルバイトが減り、学費の支払がかなり厳しい状況で、学費がなかなか予定通りに納入できなかった。本人にも大変な状況であることを自覚しており、今後状況に合わせて指導していこうと考えている。</p>
<p>S212078 卒業研究</p>	<p>いままでゼミで習得してきたことをもとに、各自研究や課題となるテーマを見出し、研究テーマを選定し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながら、文章をまとめる力を身につける。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を身につける。</p>	<p>授業の前半は就職活動でゼミ生が全員揃うことがなかなか難しい状況だったため、個人指導が多かった。ゼミ生それぞれの卒論研究の進捗状況、就職活動に合わせて授業を進めた。学生の就職活動の時間を調整して授業以外の個別指導の時間を設けるようにした。各ゼミ生の進度に合わせた指導を心掛けた。</p>	<p>授業評価 4.567(4.7、4.7、4.5、4.5、4.5) 回答率 100%</p> <p>6人のゼミ生全員アンケートに回答した。概ねいい評価だった。対面60分・オンデマンド30分の授業で計画したが、就職活動でゼミ生が全員揃うことがなかなか難しい状況だったため、卒論の作成には、個人差が大きく、各学生の状態に応じて対応した。一人卒業直前まで修得も、卒論の内容が決められない学生には個人指導が多かった。SNSを使用し個々に対応した。</p>
<p>L212038 中国語 B</p>	<p>中国語の発音構造や特徴を理解し、よく使われる基本的な表現ができる。 中国語の文法の基本知識を応用できるようにすることを目的とします。 中国語のそのものを勉強するだけではなく、中国語という言葉の側面にある文化や考え方についてもさらに深く理解することができる。</p>	<p>今回は受講者120名で、語学の授業にしては、かなり人数が多かった。対面60分・オンデマンド30分の授業を実施した。ほとんど中国語Aの単位を取得した受講生で、より日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用したことで、オンデマンド30分、対面の60分練習でできなかった分をカバーすることができた。</p>	<p>授業評価 4.424(4.5、4.2、4.4、4.5、4.5)回答率 69.2%。</p> <p>昨年の回答率23%より、評価4.30と比較すると、アンケートの回答率、評価ともに向上した。中国語Aを未取得の学生から「授業のスピードが速い」、「難しい」との意見もあった。授業を難しく感じている学生もいるので、具体例の解説を増やすなどの対応を行い、今後、改善はいは考慮して授業を実施していこうと考えているが、今後中国語Aを取得することを必須条件とするべきか考え中である。</p>

<p>S212066 国際社会貢献論</p>	<p>国際社会貢献について学ぶには、その前提として、国際政治経済と社会の現状に関する理解が不可欠です。国際政治経済についての基礎知識を習得し、国際協力についての理解を深めることを目的とします。さらに、国際協力の手法を学ぶことを通じて、地域社会や国際社会でマネジメントできるようになることをめざします。</p>	<p>対面 60 分・オンデマンド 30 分の授業を実施した。コロナ禍の状況に合わせて、3 回の遠隔授業を行った。授業内容の説明を UNIPA の授業資料管理で資料とその内容を配信し、学習するという方法で実施した。対面で実施するときは、受講生に主体的にいま話題となっている国際政治経済に関する事について調べさせ、考えてきたことを発言してもらった。受講生同士にディスカッションを行わせることで、より授業の内容への理解を深めさせた。難しい国際社会の問題について、講義中にディスカッションを行ったり、国際政治や経済の現状に関心を持ってもらうため、具体的な事例を挙げながら、分かりやすく学習させることができた。</p>	<p>授業評価 4.255(4.1、4.1、4.1、4.3、4.1、4.1) 回答率 69.6%。</p> <p>昨年は授業評価も回答も無しだったので、昨年と比較するとアンケートの回答率と、評価を得て、その結果などを参考にして、感染予防に留意しながら対面授業で行うことを工夫して実施することが必要である。</p>
----------------------------	--	---	--